

英語科 研究計画の概要

唐津市立海青中学校

校長 森 慎也

1 研究主題名

「場面や状況に応じた言語活動を通して、自分の気持ちや考えを安心して表現できる生徒の育成」
～ピア・サポートを活かした協働学習を通して～

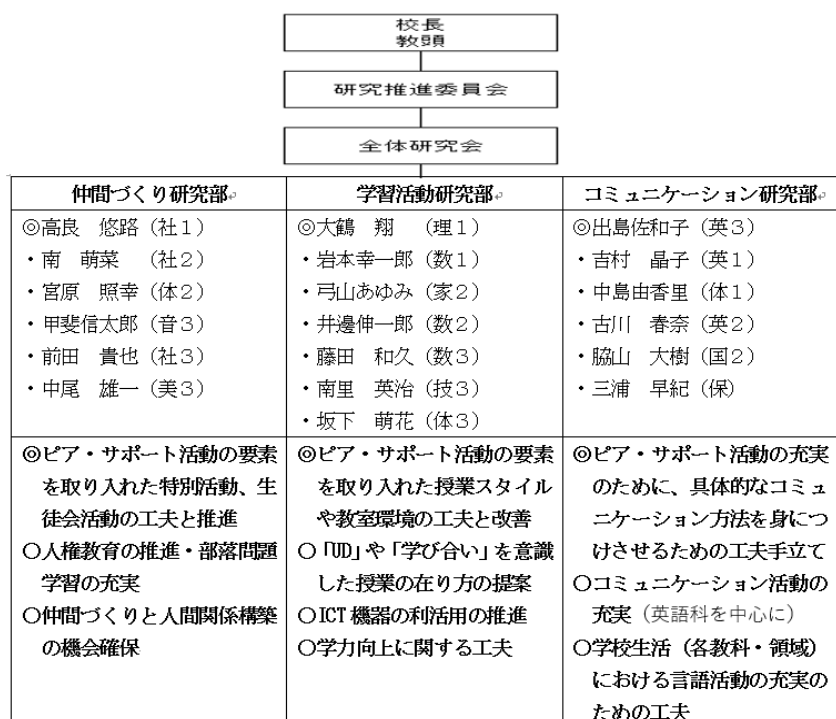
2 研究主題設定の趣旨

学習指導要領における外国語科の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。」ことである。

中学校英語科では、言語知識の習得にとどまらず、生徒が実際の場面や状況に応じて、英語を使って自分の気持ちや考えを的確に表現し、他者と円滑にコミュニケーションを図る力を育成することが求められている。また、新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められ、生徒が自ら学ぶ意欲をもち、対話を通して他者と学びを深めることが重視されている。しかし本校では、学力的に基礎的な力が十分でない生徒が多く、また以前は落ち着いた学習環境が確保しにくいという課題を抱えていた。そうした中で本校は、佐藤学先生の提唱する「学びの共同体」の考え方を取り入れ、すべての生徒を学びの中に包み込むという信念のもと、教室の座席配置を「コの字型」とし、学習形態の見直しや授業改善に取り組んできた。「コの字型の学習形態」は、生徒同士が互いの表情を見ながら学ぶ教室の座席配置によって、対話的・協働的な関係性を育み、ペア・グループ学習を日常的に取り入れることで、生徒同士のつながりや学び合いの習慣を築いてきたという経緯がある。「学びの共同体」の理念を引き継ぎ、本校では、校内研究で取り組んでいるピア・サポートの視点を盛り込み、協働的な学びの基盤をもとに、今年度、英語科では、「場面や状況に応じた言語活動を通して、自分の気持ちや考えを安心して表現できる生徒の育成」を研究主題として掲げた。特に副題にあるように、「ピア・サポートを活かした協働学習」を通して、生徒同士の関わり合いの中で安心感と信頼感を高め、英語を使って自分の考えを相手に伝えることへの抵抗感を軽減し、主体的に学びに向かう姿勢を育むことをねらいとしている。言語活動としては、授業の導入において、Small Talk活動を帯学習として位置づけ、身近で答えやすい問いかけを継続的に行うことで、英語を使う抵抗感を軽減し、コミュニケーションの楽しさや、英語で伝えたいという気持ちを自然に喚起することが期待される。また、ペアやグループでのやりとりを通じて、聞き手を意識した発話や、対話のリズムも育まれると考える。このような活動を通して、生徒が「自分が伝えたいことが相手に伝わった」「相手のことを知ることができた」という喜びや「次はこんなことをもっと伝えたい」という意欲を生み、英語学習の内発的な動機づけとなり、主体的にコミュニケーションを図ろうとする力の育成に直結すると考える。そのためには、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に応答する力を身につける必要がある。しかし、生徒は、英語で伝え合う活動を行ってはいるものの、即興でやり取りをしたり、気持ちを伝え合ったりするまでには至っていない。そのことが本校の課題である。そこで、ピア・サポートの環境の下でペア、グループ学習を充実させ、Small Talkなどの対話的な活動を習慣化し、即興的に安心して表現できるような指導方法を研究したいと考え、本年度のテーマを設定し、研究に取り組んでいる。

また、総合的な学習の時間と連携し、既習表現を使って、思考・判断を繰り返しながら習得した知識や経験をまとめたり、常に相手意識をもって、自分の考えや思いを聞く人、読む人に伝わりやすいように表現したりし合えるような生徒の育成に努めたい。

3 研究体制



4 研究の目的

- （1）ピア・サポートを取り入れた協働的な活動を通して、安心して英語を使い、伝わる喜びを体験することで更に伝えたいという意欲を喚起し、自分の気持ちや考えを表現できるコミュニケーション力を養う。
- （2）Small Talkなどの日常的な対話活動を習慣化し、場面・状況に応じた言語活動の工夫を通して、即興的にやり取りをする力や表現する力を養う。
- （3）他教科や総合的な学習の時間と関連づけることによって、統合的な広い視野をもち、英語で書いたり話したりする活動を通して、発信する力を養う。

5 研究内容及び方法

（1）指導形態の工夫

- 「コの字型」・・・ピア・サポートの視点を取り入れたペア活動、グループ活動の充実「コの字型」で目指すこと
- ・すべての子どもが学びに参加すること→誰も取り残さず、全員が考え、話し合い、学べるようにする。
- ・深い学び→表面的な知識だけでなく、なぜそうなるのか、自分の考えを深めていく。
- ・学び方を学ぶ→自分で学ぶ力、他者と学ぶ力を身につける。



○「コの字型」の授業

- ・対話を重視→ 子どもたち同士で意見交換しながら学ぶ。
- ・一人ひとりの考えを大事に→ 間違いも成長のチャンスとして受け入れる。
- ・協働的な学び→ グループやペアで協力して課題に取り組む。



(2) 指導方法の工夫

○帯学習 Small Talk活動の工夫と実践

(別紙参照)

「話すこと」「やり取り」「即興性」の言語活動の定着

- ・1L3Rの定着 L… Listen carefully , 3R…Repeat and Echoing , Reaction , Response
- ・KAISEI Useful Expressions (別紙参照：各学年に応じたもの)
- ・スラスラ、KAISEI Small Talk集、Small Talkすごろくなど

○「聞くこと」「読むこと」の効果的な指導の工夫

- ・デジタル教材(ストーリースライド)の活用

○「書くこと」…各单元ごとに、「書く」活動を位置づける。また、総合的な学習の時間と連携し、習得した知識や経験を英語で表現する

(例) 海青中学校1年生の総合的な学習の時間のテーマである「自分を知る」「地域を知る」「環境について考える」に関して英語で「書くこと」の活動に取り組み、まとまりのある(文章を書くことができる力を身につけさせることを目指す。自己紹介、地域探検レポート、ボランティア活動など)

(3)「英語科」と「総合的な学習の時間」との統合

(別紙参照)

探究テーマと英語をつなげる表現活動…探究的な学びの中で習得した知識や経験を英語で表現する

○各学年のテーマと関連付け

└ 1年：自分を知る・地域を知る/環境 2年：将来 3年：人権と平和

○身近でリアルなテーマを英語で考え・伝える活動へ

○探究と英語の融合で「言語活動の意味づけ」を強化

(4)単元計画と評価の工夫

(別紙参照)

ピア・サポートを取り入れた単元構成と評価

○生徒のつまずき・伸びに合わせた単元設計 …KAISEI Can-Do Card

○振り返りを共有し合う活動(ペア/グループ内で)…Work Together Sheet

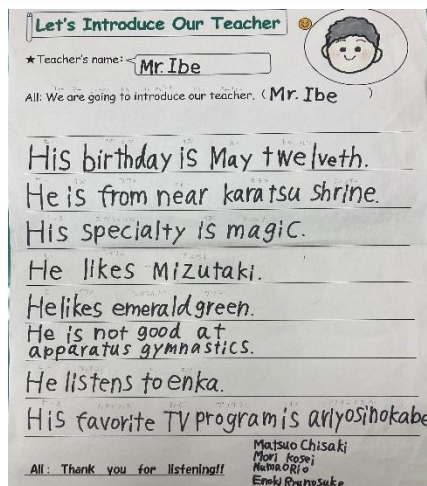
ARE…A/Assist R/Relax E/Eye contact

パフォーマンステスト、ルーブリックの作成

○成長や努力が見える化した評価…自学ノート、テストなどのやり直しプリント

(5) 環境整備の充実

- ALTコーナー、英語コーナー（各学年のフロア）
- 生徒の成果物の掲示（随時）



(6) その他の活動

- 英語日直の定着（朝の会、帰りの会）
- ワークシートの充実
- モチベーションを維持するために
 - ・ゲーム…UF0アタック、Save The Earth、Make a Bet、BINGO、
 - ・ダイスゲーム、ALT作成の活動
 - ・チャンツ

6 検証方法

- (1) アンケート調査による生徒・教師の実態把握
- (2) 授業中の活動の記録、パフォーマンステスト

7 研究の成果と課題(成果○課題●)

- 毎時間の生徒の振り返りシート“Work Together Sheet”から、ペアやグループでの協働的な活動をして、分からないところを安心して友達に尋ねることができたり、自分の気持ちや考えを伝えることができていたりして、喜びを体験することができた生徒が数多くいた。
- 帯学習としてのSmall Talk活動の題材に関しては、教科書の新出構文を含んだり、行事や季節に沿った場面・状況を設定したり、1 L3Rや、KAISEI Useful Expressionsを活用しながら、毎時間取り組むことで定着を図った。
- 単元計画“KAISEI Can-Do Card”については、単元ゴールに向かって、毎時間の身につけた知識・技能や思考・判断力を可視化することができ、有効活用することができた。
- 生徒のレポートなどの成果物や感想などから、総合的な学習の時間と関連づけることによって、統合的な広い視野をもち、英語で書いたり話したりする活動を通して、発信する力を養うことができた。
- Small Talkなどの日常的な対話活動を習慣化することはできたが、即興的にやり取りをしたり、臨機応変に会話を継続したりするまでは至っていない。